

高品質特殊鶏「南部かしわ」の飼養管理マニュアル
 - 放し飼いを利用した飼養方式 -

(畜試 中小家畜部)

1. 背景とねらい

昭和60年度に普及奨励事項として「南部かしわの作出とその特性」が採択され普及に移しているが生産現場では、よりよい商品化を目指している。

特に、消費者ニーズに対応する商品化の条件として、美味しい、品質がよい、自然食品、安全性の高い生産体制にあることが重要な事項とされている。

従って、これらの背景をふまえながら従来の飼養法の舍内平飼方式に加えた、放し飼いを飼料の質的条件もあわせて検討したので参考に供したい。

2. 技術の内容

(1) 飼養方法

給与飼料	え付～4週齢	4～14週齢	14～16週齢
	電熱ハチ-又はカスフ-	放し飼い(草地付)	舍内平飼い
給与飼料 I	採卵鶏用前期飼料 CP21%-ME2950kcal/kg	採卵鶏用後期飼料 CP14%-ME2700kcal/kg	採卵鶏用後期飼料 CP14%-ME2700kcal/kg
給与飼料 II	ブロイラー用前期飼料 CP22%-ME3100kcal/kg	ブロイラー用後期飼料 CP18%-ME3150kcal/kg	ブロイラー用後期仕上飼料 CP18%-ME3150kcal/kg

給与飼料	平均体重	飼料摂取量	飼料要求率
対 照	2701g	814.0kg	3.25
I	2365	845.5	3.89
II	2606	750.2	3.11

注1) 対照は、ブロイラー用飼料で舍内平飼である。

注2) 100羽え付の16週齢時のデータである。

- ア. I の場合、草の利用性に富むが、体重の伸びが悪く、飼料要求率も3.89と劣る。
- イ. II の場合、草の利用性が良好で、体重は対照に比べ、約100g低い、飼料要求率で3.11と0.14改善される。
- ウ. ア.、イ. から、「南部かしわ」は草の利用性が良く、放し飼いに適することがわかる。特に増体や要求率、生体 1kg当りの飼料費をみると、ブロイラー用飼料を給与し、放し飼いを取り入れるのが良い。

(2) 生産コスト表 (100羽飼養時生体 1kg当り)

	放し飼い方式 (100坪)	舍内平飼 (4坪)	備 考
ヒナ代	89	86	4週齢 210円/羽
飼料費	135	142	ブロイラー用後期48.33円/kg
衛生費	8	7	1羽当り20円
簡易鶏舎	32	31	60,000円 8年償却
金網等	17	3	20,010円又は3,450円 5年償却
給餌給水器	11	10	25,000円 10年償却
合 計	292円	279円	

注1) 土地代、草代は、コスト計算に含まれていない。

注2) 給与飼料は、ブロイラー用飼料である。

- ア. 生体 1kg当りの飼料費は、放し飼い 292円、舍内平飼 279円で放し飼いが13円コスト高となる。
- イ. その主な要因は、外敵対策のための金網費用である。

3. 指導上の留意点
 (1) 放し飼いする際は、外敵(野犬、狐、鷹、イタチ等)への対策を厳重に行う必要がある。
 (2) 放飼場の面積は、1羽当り1坪程度は確保したい。
 (3) 出荷前1週間は、仕上げ(休薬)飼料を給与することを厳守する。
 (4) 「南部かしわ」の雛は、当分の間畜産試験場から供給する。
 (5) 「南部かしわ」は、値段の高い特殊な肉鶏なので導入する前に、予め出荷先を決めておくことが必要である。
 (6) 放し飼いにより肉質への悪影響は見られない。
4. 関連試験課題名
 高品質特殊鶏肉の開発(「南部かしわ」の造成試験)
5. 参考資料
 愛知県農業総合試験場研究報告 名古屋種利用による肉用交雑試験
 秋田県畜産試験場研究報告 比内交雑鶏の増体率向上試験
6. 主要成果の具体的数字

表1 試験方法

区	飼養方式	給与飼料		羽数
		0~4週齢	4~16週齢	
1	舎内平飼	CP21-ME2950	CP14-ME2700	100
2		CP22-ME3100	CP18-ME3150	100
3	放し飼い	CP22-ME2950	CP14-ME2700	100
4		CP22-ME3100	CP18-ME3150	100

注1) 0~4週齢までは全区とも電熱バッテリーで育雛し、4週齢以降舎内平飼と放し飼いの飼養方式をとった。
 注2) 1,3区の飼料は採卵鶏用前期及び後期飼料で、2,4区の飼料はブロイラー用前期及び後期飼料である。

表2 体重の推移(♂,♀の平均体重)

	2W	4W	6W	8W	10W	12W	14W	16W
1	143	372	590	904	1262	1727	1949	2355
2	154	426	751	1171	1586	2028	2399	2700
3	139	371	636	972	1319	1759	2066	2364
4	156	393	721	1118	1525	1952	2338	2605

表3 飼料摂取量(1日1羽当り)

	0-2W	2-4W	4-6W	6-8W	8-10W	10-12W	12-14W	14-16W
1	12.3	30.2	56.4	73.2	93.6	102.3	136.9	158.1
2	11.1	33.1	53.4	71.7	84.8	99.2	138.4	119.6
3	11.7	30.7	55.7	72.0	88.0	98.6	113.0	139.1
4	12.0	29.5	50.2	66.8	73.9	85.9	126.2	99.0

表4 飼料費(草の分は含まず)

	育成率(%)	全体重量(kg)	全飼料摂取量(kg)		飼料費(円)		生体1kg当り飼料費	
			0-16W	4-16W	0-16W	4-16W	0-16W	4-16W
1	98.0	231.40	962.95	885.60	41750	37341	180	161
2	94.0	250.82	814.00	738.95	39769	35604	159	142
3	91.0	217.39	845.45	769.65	36754	32433	169	149
4	95.0	241.43	750.15	675.35	36670	32519	152	135

表5 解体及び肉質調査(16週齢時)

性	精肉歩留(対生体)	(対屠体)	(テクスチャー)						(色調)		
			硬さ	凝集性	付着性	弾力性	ガム性	咀嚼性	L(明度)	a(赤色度)	b(黄色度)
1 ♂	37.7%	40.4%	2.96	0.49	0.76	1.53	1.43	2.18	47.78	7.79	6.84
2 ♂	37.8	39.6	2.94	0.53	0.74	1.63	1.55	2.51	49.75	7.56	6.19
3 ♂	37.3	40.0	2.88	0.44	0.68	1.50	1.28	1.89	47.47	6.64	6.36
4 ♂	37.3	39.9	3.67	0.43	0.95	1.40	1.59	2.25	45.63	8.68	7.24

注) テクスチャー・色調に用いたサンプルは胸肉である。